



# 癌抑制遺伝子RAPL・Mstカスケードの作用メカニズムの解析



Kwansei Gakuin University

関西学院大学 理工学部生命科学科 教授 片桐 晃子

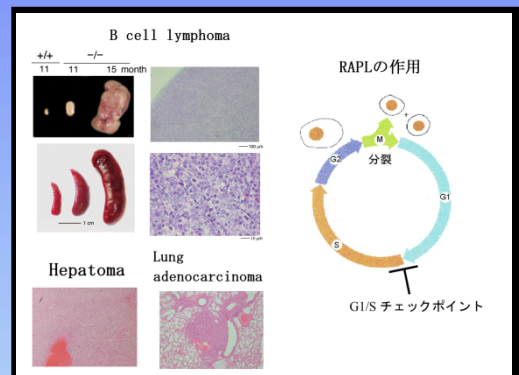
## キーワード

発がん、B細胞リンパ腫、肺がん、肝がん、がん抑制遺伝子

## 研究の概要

RAPL-Mst1が、生体免疫系の過剰応答に起因する、自己免疫疾患・アレルギー疾患などの原因遺伝子であるばかりではなく、リンパ腫、肝がん、肺がん、肝がんの抑制遺伝子として重要な役割を果たしていることを見出した。Mst1の下流の増殖抑制・発がん抑制に関与する分子を同定することにより、これらを標的とする抗癌剤の開発並びに癌細胞増殖抑制療法および癌の転移抑制法の確立へつなげる。

- 1)RAPL欠損マウスは、加齢に伴い、30%の高頻度でB cell lymphomaを発症し、リンパ節或いは脾臓が腫脹する。また、hepatoma及びlung adenocarcinomaを発症する頻度も高い。
- 2)RAPLは、細胞周期のG1からS期移行時のcheckpointとして、増殖応答を制御している。



## 研究の応用分野

抗がん剤、がん転移抑制、リンパ球増殖疾患（自己免疫疾患、炎症性疾患）

## 関連業績（特許・文献）

Crucial functions of the Rap1 effector molecule RAPL in lymphocyte and dendritic cell trafficking. **Katagiri K, et al., Nat. Immunol.** 5:1045-51, 2004

## 研究室ホームページ

<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/~katagiri/Top.html>

関西学院大学 研究推進社会連携機構

<http://www.kwansei.ac.jp/kenkyu/>

Tel. 079-565-9052 / Fax. 079-565-7910 E-mail: ip.renkei@kwansei.ac.jp